

魚種（海域）：スルメイカ（太平洋～オホーツク海海域）

担当：釧路水産試験場（澤村正幸），函館水産試験場（有馬大地（現中央水産試験場），奥村裕弥）

要 約

評価年度：2019年度（2019年4月～2020年3月）

2019年度の漁獲量：7,936トン（前年比1.59）

来遊量の指標	全国の資源水準※	北海道への来遊水準
漁獲量	低水準	低水準

※全国の資源水準は2019年の水準

太平洋～オホーツク海海域へ来遊するスルメイカの主群である冬季発生系群の2019年度の資源量は前年より減少し、低水準と評価された。本海域へ来遊したスルメイカの漁獲量は前年度から増加したものの、1990年以降では依然として低い値であった。太平洋海域における小型イカ釣り船の漁獲量も、根室海域からオホーツク海にかけて前年を上回る海域がみられたものの過去との比較では低い値に止まり、函館港・浦河港でも漁獲量は前年度から減少した。太平洋～オホーツク海域の漁獲量を資源量の指標とした来遊水準指数は低水準と判断され、太平洋海域のみの漁獲量を指標とした参考値も同じく低水準となった。

1. 資源の分布・生態的特徴**(1) 分布・回遊**

東シナ海～サハリン西岸～中・南部千島周辺に分布する。秋季発生系群は、9～12月に日本海南西部～東シナ海でふ化し、成長しながら日本海を北上する。主群は7月頃に道南海域へ来遊する。冬季発生系群は、1～4月に東シナ海でふ化し、成長しながら太平洋と日本海を北上する。主群は道南海域～道東太平洋へ8月頃に来遊する。8～9月に分布域を最も北の海域まで広げ、10月以降産卵のため南下する。根室海峡～オホーツク海沿岸へは11月頃に来遊する。

(2) 年齢・成長

月齢	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月
外套長(cm)	18	22	26	28
体重(g)	121	233	361	484

*) 外套長：菅原ほか¹⁾ から計算

*) 体重：加賀ほか²⁾ から引用

*) ふ化後、産卵して死亡するまでの寿命はほぼ1年である。

*) 北海道太平洋～オホーツク海海域へ来遊するスルメイカの月齢は9ヶ月まで。

(3) 成熟年齢・成熟体長

- ・オス：孵化後約9か月で成熟して、メスと交接する。
- ・メス：孵化後10か月以降、オスより遅れて産卵の前に生殖器官を発達させて成熟する。
 - *) オスはメスに先がけて成熟する。
 - *) 道東太平洋からオホーツク海ではメスの成熟個体はほとんど見られない。

(4) 産卵期・産卵場

- ・産卵期：秋季発生系群では11～12月で、冬季発生系群では2～5月である³⁾。
- ・産卵場：秋季発生系群では北陸沿岸域から対馬海峡付近・東シナ海⁴⁾、冬季発生系群では主に東シナ海である²⁾。

2. 漁業の概要**(1) 操業実勢 (図1)**

漁業	漁期	主漁場	主要な漁具	着業規模
いか釣り	6月～1月	太平洋沿岸, オホーツク海沿岸	いか釣り	渡島：568隻(2018許可) 胆振：90隻(2018許可) 日高：65隻(2018許可) 十勝：49隻(2019許可) 釧路：125隻(2018許可) 根室：141隻(2018許可) オホーツク：49隻(2017許可) 宗谷：3隻(2017許可)
沖合底びき網漁業*	9月～1月	太平洋, オホーツク海沿岸	かけまわし, オッタートロール	胆振：5隻(か) 日高：2隻(か) 十勝：2隻(か) 釧路：7隻(か), 5隻(オ) オホーツク：5隻(か), 2隻(オ) 宗谷：1隻(か)
定置網	6月～11月	太平洋, オホーツク海沿岸	建網	

*沖合底びき網漁業 (か：かけまわし, オ：オッタートロール)

(2) 資源管理に関する取り組み

1998年度よりTAC対象種に指定されており、TACにより漁獲量が管理されている(表1)。

3. 漁獲量および漁獲努力量の推移**(1) 漁獲量**

全国 日本国内における冬季発生系群の漁獲量は、1980年代の低い水準から1990年代に入り増加し、10万～20万トン台で推移した²⁾(図2)。1998～1999年に大幅に減少したあと再び増加して2011年度には18.6万トンに達したが、その後減少が続き、2018年は約2.3万トンであった。冬季発生系群が主体と考えられる北海道太平洋～オホーツク海の漁獲量が国内漁獲量に占める比率は、資源水準が高い時期に高くなる傾向がみられる。

スルメイカのTACは、1998年から2003年まで45万～53万トン、2004年から2010年まで30万トン台、2015年に43万トンとなったが、その後は一貫して減少し、2019年は6万

7千トンであった(表1)。集計期間は2013年までが暦年、2014年以降は漁期年(4月～翌年3月)となっている。北海道知事管理分は、1998年から2019年まで若干量に設定されている。

北海道 表2, 図3に、北海道の太平洋～オホーツク海における海域別スルメイカ漁獲量の経年変化を示した。この海域の漁獲量は、全国の漁獲量と同様に1980年代後半から増加傾向となり、1996年度に11.0万トンにまで増加した。その後2015年度までおおむね3～6万トンの高い値で推移したが、2016年度以降急減して1万トンを下回る状態が続いている。2019年は前年度(4,992トン)から増加して7,936トンであった。

海域別では、太平洋は1991年度から2015年度までほとんどの年で2万トンを超える漁獲量を維持していたが、2016年度に7,219トンと急減したのち減少を続け、2019年度は4,076トンで前年(4,676トン)を下回り、資源が低水準期にあった1988年以来31年ぶりの低い値となった。このうち道南は前年度(4,268トン)の73%となる3,131トン、道東は前年度(408トン)の231%となる945トンであった。オホーツク海は1991年度以降大きく変動しながらもおおむね1万トン以上の漁獲量を維持していたが、太平洋と同じく2016年度に急減して1,000トンを下回り、それ以降低い水準となっている。2019年度の漁獲量は1990年以降で最低であった前年度(316トン)の12.2倍となる3,860トンであった。うち根室海峡は前年度(169トン)の15.8倍となる2,670トン、オホーツク・宗谷は前年度(146トン)の8.1倍となる1,190トンであった。

本海域における2019年度の合計漁獲金額は60億円(前年度51億円)であった。

(2) 漁獲努力量

表3に、道南太平洋の函館港、浦河港、道東太平洋の十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港、オホーツク海の羅臼港における小型いか釣り船の延べ水揚げ隻数を示した。渡島太平洋から釧路管内にかけての延べ隻数は過去10年間減少傾向にあり、2019年度の出漁隻数は函館港(2,075隻)、十勝港(61隻)、厚岸港(228隻)では前年を上回ったもののいずれも過去との比較では低い値に止まり、浦河港(367隻)及び釧路港(53隻)では前年度を下回った。一方、根室太平洋の花咲港は1,500隻で前年度の3.4倍、オホーツク海の羅臼港は4,175隻で前年度の3.7倍であった。全体として小型いか釣り船の出漁隻数は、日高管内から釧路管内にかけては減少し、根室太平洋海域からオホーツク海にかけて前年度より大きく増加していた。

1996年度以降のスルメイカを対象とした沖合底びき網漁業の曳網回数(漁獲物中に占めるスルメイカの重量比が80%以上となった曳網の回数)は、道南太平洋(襟裳以西)では2003年度の758回をピークに減少傾向にあり、2019年度は2年連続して0回となった。道東太平洋(道東)は1996年度の1,139回から減少して2010年度までおおむね200回以下で推移したのち、2011年度から2015年度にかけてはやや増加しておおむね200回から400回の範囲にあった。しかし2016年以降は急減し、2019年度は3年連続して0回であった。オホーツク海(オホーツク沿岸)では2013年度の2,134回をピークに年により大きく変動し、2019年度は4年連続し

て0回となった。

4. 資源状態

(1) 現在までの資源動向

令和元年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価²⁾によれば、スルメイカ冬季発生系群の資源量は、日本国内における冬季発生系群の漁獲量(図2)と同様に、1980年代の低い水準から1990年代に入って増加し1996年には103万トンとなった(図4)。その後2014年まで71万～103万トンと比較的高い水準で推移していたが、2015年以降資源量が大きく減少し、2019年の資源量は低水準と評価されている。

5. 北海道への来遊状況

(1) 当業船の漁獲動向

図5に道南太平洋の函館港および浦河港、道東太平洋の十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港、オホーツク海の羅臼港における小型いか釣り船のCPUE(1日1隻あたり漁獲量kg)を示した。2019年度のCPUEは浦河港が412kg(前年度229kg)、花咲港が406kg(前年度386kg)で前年から増加し、函館港が108kg(前年度128kg)、釧路港が360kgで前年(393kg)から減少した。十勝港では11月から12月にかけて2年ぶりの水揚げがあり、CPUEは536kgであった。全体として、各港のCPUEは前年を上回る港が多かったものの、過去との比較ではいずれも低い値に止まり、道東太平洋への来遊水準は低かったと考えられる。

オホーツク海の羅臼港における2019年度の小型いか釣り船CPUEは639kgで前年度(150kg)から大きく増加したが、過去との比較では低い水準であった(図5)。オホーツク海全体の2019年度の漁獲量も過去及び前年度との比較で同様の傾向を示したこと(表2、図3)、オホーツク海への来遊量は前年度を上回ったものの低い水準であったと考えられる。

(2) 調査船調査の状況

2019年の調査船調査の結果について、6月(図6)及び8月(図7)の各調査点のCPUE(いか釣り機1台1時間あたり漁獲尾数)を示した。6月道東太平洋の各調査点のCPUEは0～0.27尾で、最も東の調査点で2年ぶりに漁獲がみられたものの、漁獲尾数は4尾のみであった。また、道南太平洋で1点のみ実施した調査での漁獲はなかった。

8月調査の各調査点のCPUEは道東太平洋が0～1.9尾、道南太平洋が0～8.7尾であった。道東太平洋沿岸の分布密度は2015年以前には全体的に高い値を示したが、2016年以降は大きく低下している。襟裳以西の道南太平洋の2014年以降のCPUEも減少傾向にあり、2019年に実施した調査では3点中2点が漁獲なしとなった。

オホーツク海への回遊仮説^{5,6)}として、8月下旬の釧路以東の分布が多い事と北方四島周辺の7月の水温が高い事などが来遊の多い要因とされている。水産研究・教育機構による表層トロールネットを用いた調査²⁾では、2019年5月上旬～6月上旬の移行域幼稚魚調査での外套長10cm未満のスルメイカの平均CPUEは2015年以降では最も高い値となったほか、

前年に比べ沖合まで分布がみられた。また、7月の加入量把握調査でも東経146～150°の沖合域を中心にスルメイカの分布がみられた。道水試による調査船調査では6月に調査海域の最も東側に当たる根室沖の調査点でスルメイカの分布と水温・塩分の高い暖流水の波及がみられた(図6)一方、8月の十勝～釧路沿岸での分布密度は低い値であった。また、札幌管区気象台発表の海水温データ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/kaiyou/engan/engan.html>)では、2019年は魚群の北上期にあたる7～8月に根室海峡～北方四島周辺の水温が高い状態にあった。これらの結果から、2019年度北上期のスルメイカは例年より沖合を中心に分布していたと推測され、その一部が千島列島周辺からオホーツク海に來遊して、この海域での漁場形成につながったと考えられる。

(3)2019年度の北海道への來遊状況：低水準

北海道への來遊量の目安となる北海道太平洋～オホーツク海海域における1985～2019年度の漁獲量は冬季発生系群の資源変動の影響を強く受けている(図8)。2019年の冬季発生系群の資源量は約14.4万トンと推定され、前年15.9万トンから減少した。

來遊水準の指標として、北海道太平洋～オホーツク海海域の漁獲量を用いた(図9)。1995年度から2014年度の20年間の平均値を100とし、 100 ± 40 の範囲を中水準、その上下をそれぞれ高水準、低水準とした。2019年度に当海域に來遊したスルメイカの來遊水準指数は14で低水準と判断された。昨年度の指標とした北海道太平洋海域のみの合計漁獲量を指標とした参考値では、2019年の來遊水準指数は11となり、同じく低水準と判断された。

(4)今後の資源動向：横ばい

スルメイカは1つの年級群で資源が構成されるため、毎年度の新規加入量によって資源量が大きく変動する。令和元年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価²⁾によると2020年級群を生む親魚量は B_{limit} を下回っており、短期的に資源が回復する可能性は低い。道南及び道東太平洋での漁獲は2019年度も継続しているものの、漁場の形成は散発的であり、今後の資源動向は現在の低い水準のまま横ばいと考えられる。

評価方法とデータ

(1) 資源評価に用いた漁獲統計

漁獲量	<p>漁業生産高報告。2018, 2019 年度は水試集計速報値を含む。</p> <p>道南太平洋：渡島（松前，福島町および八雲町熊石地区を除く），胆振，日高振興局管内</p> <p>道東太平洋：十勝，釧路，別海町以南の根室振興局管</p> <p>オホーツク海：標津町，羅臼町およびオホーツク，宗谷振興局（枝幸，浜頓別町，猿払村および稚内市宗谷地区）管内</p>
漁獲努力量	<p>函館港，浦河港，十勝港，釧路港，厚岸港，羅臼港における小型いか釣り船の延べ操業隻数（荷受資料に基づく水試集計値）</p> <p>北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計年報</p>

(2) 漁船の努力量および CPUE

道南太平洋の主要港である函館港と浦河港，道東太平洋の主要港である十勝港，釧路港，厚岸港，花咲港，およびオホーツク海の主要港である根室海峡の羅臼港における小型いか釣り船の延べ操業隻数（以下，延べ隻数とする）と漁獲量を用いた（函館水試と釧路水試資料）。函館港，浦河港，十勝港，釧路港の CPUE を小型いか釣り船の 1 隻 1 日当たりの漁獲量として算出した。

沖合底びき網漁業（かけまわし）の努力量については北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計年報を用い，中海区の「オコック沿岸」，「襟裳以西」，「道東」において，スルメイカの漁獲量が 80%以上となる曳網をスルメイカ対象の曳網と判断して集計した。

(3) 調査船調査

釧路水産試験場所属の試験調査船北辰丸（道東太平洋）および函館水産試験場所属の試験調査船金星丸（道南太平洋）により，毎年 6 月及び 8 月に北海道太平洋海域で行っている調査船調査の結果を用いた。漁獲調査の結果から各調査点における CPUE（自動いか釣り機 1 台 1 時間あたりの平均漁獲尾数）を求め，分布密度の指標とした。

文 献

- 菅原美和子，山下紀生，坂口健司，佐藤充，澤村正幸，安江尚孝，森賢，福若雅章：太平洋を回遊するスルメイカ冬季発生系群の成長に及ぼす孵化時期と性差の影響。日本水誌. 79, 823-831 (2013)
- 加賀敏樹，岡本俊，安田十也：令和元(2019)年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価。令和元年度魚種別資源評価。水産庁 国立研究開発法人水産研究・教育機構，2020。（オンライン），〈<http://abchan.fra.go.jp/digests2019/details/201918.pdf>〉
- 坂口健司，佐藤充，三橋正基，木所英昭：北海道周辺海域におけるスルメイカの日齢と

発生時期. 日水誌. 75(2), 204-212 (2009)

- 4) 久保田洋, 宮原寿恵, 松倉隆一, 岡本俊, 西嶋翔太: 令和元(2019)年度スルメイカ秋季発生系群の資源評価. 令和元年度魚種別資源評価. 水産庁 国立研究開発法人水産研究・教育機構, 2020. (オンライン),
<<http://abchan.fra.go.jp/digests2019/details/201919.pdf>>
- 5) 坂口健司: 北海道周辺海域で標識放流されたスルメイカの移動. 北水試研報. 77, 45-72 (2010)
- 6) 坂口健司, 山下紀生: オホーツク海におけるスルメイカの漁獲量の予測方法. 水産海洋研究. 79(2), 43-51 (2015)

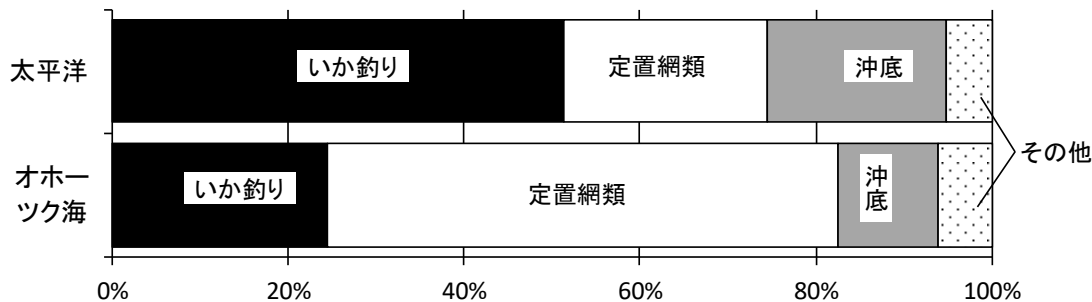


図1 北海道太平洋及びオホーツク海のスルメイカ漁獲量に占める各漁業種の割合 (2014～2018年度の平均値)

表1 スルメイカTACの推移

年度	西暦	TAC (全国計)	大臣管理分	北海道知事管理分	集計期間
平成10	1998	450,000	322,000	若干	暦年
11	1999	500,000	322,000	若干	暦年
12	2000	500,000	322,000	若干	暦年
13	2001	530,000	375,000	若干	暦年
14	2002	530,000	375,000	若干	暦年
15	2003	530,000	375,000	若干	暦年
16	2004	385,000	254,000	若干	暦年
17	2005	359,000	254,000	若干	暦年
18	2006	359,000	254,000	若干	暦年
19	2007	322,000	228,000	若干	暦年
20	2008	333,000	228,000	若干	暦年
21	2009	333,000	228,000	若干	暦年
22	2010	318,000	220,000	若干	暦年
23	2011	297,000	204,700	若干	暦年
24	2012	339,000	235,200	若干	暦年
25	2013	329,000	226,000	若干	暦年
26	2014	301,000	205,800	若干	漁期年
27	2015	425,000	235,200	若干	漁期年
28	2016	256,000	168,600	若干	漁期年
29	2017	136,000	86,500	若干	漁期年
30	2018	97,000	60,200	若干	漁期年
令和1	2019	67,000	34,500	若干	漁期年
2	2020	57,000	46,800	若干	漁期年

注) 2014年4月より集計期間が漁期年(4月～翌年3月)に変更された。北海道知事管理分は、5トン未満のいか釣り、定置網、刺し網などが含まれる。大臣管理分は、全国の5トン以上のいか釣り、沖合底びき網、大中型まき網が含まれる。2011年は期中改訂後の数字。

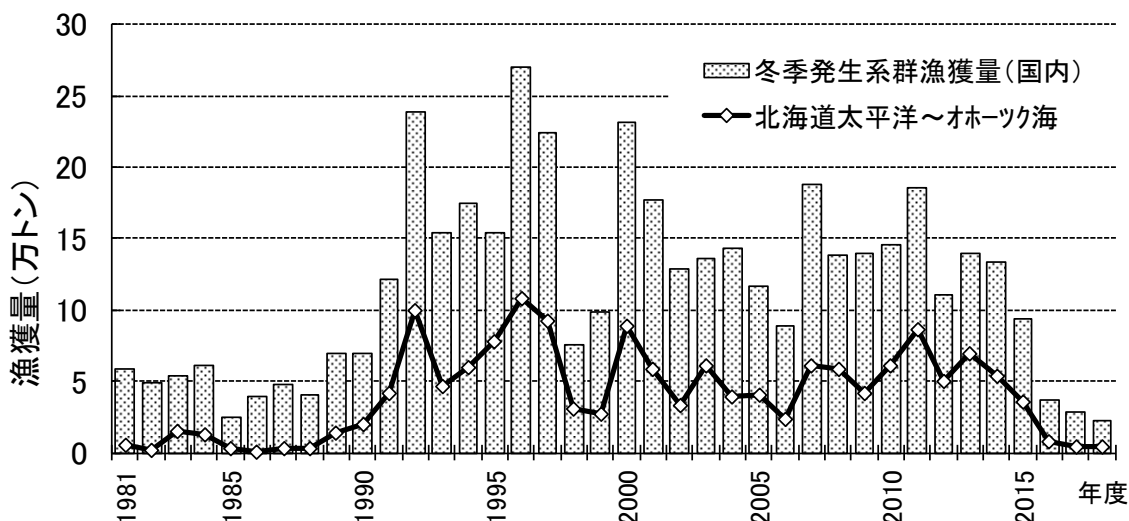


図2 冬季発生系群スルメイカ漁獲量²⁾ (日本国内分) 及び北海道太平洋～オホーツク海海域スルメイカ漁獲量の経年変化

表2 北海道の太平洋～オホーツク海におけるスルメイカ漁獲量の経年変化（単位：トン）

年度	太平洋										オホーツク海										北海道の太平洋～ オホーツク海合計
	道南					道東					根室海峡					オホーツク・宗谷					
	いか釣り	沖底	定置網他	小計	合計	いか釣り	沖底	定置網他	小計	合計	いか釣り	沖底	定置網他	小計	合計	いか釣り	沖底	定置網他	小計	合計	
1985 S. 60	348	15	360	723	3,385	959	1,289	414	2,662	3,385	6	6	6	6	0	0	0	0	0	6	
1986 S. 61	794	5	413	1,212	1,520	100	207	1	308	1,520	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1987 S. 62	825	1	1,032	1,858	2,597	39	624	77	740	2,597	138	138	138	138	7	563	570	708	3,306	3,306	
1988 S. 63	1,347	62	1,117	2,527	2,756	226	4	230	230	2,756	10	10	10	10	0	0	0	11	2,767	2,767	
1989 H. 1	7,875	370	4,124	12,369	13,210	540	48	253	841	13,210	971	971	971	971	1	116	117	1,088	14,298	14,298	
1990 H. 2	11,102	319	8,467	19,888	15,442	3,017	9,970	4,415	806	15,442	4,283	10,182	40	716	1,435	2,191	12,373	42,047	42,047		
1991 H. 3	18,476	265	31,386	50,126	67,672	16,188	1,063	294	17,546	67,672	9,000	19,878	9	3,434	8,773	12,216	32,094	99,765	99,765		
1992 H. 4	20,866	2,206	12,813	35,885	38,918	2,683	215	136	3,034	38,918	4,275	6,436	0	2,053	913	1,308	7,744	46,662	46,662		
1993 H. 5	15,713	2,625	17,772	36,110	44,822	6,813	1,157	96	8,066	44,175	7,541	12,509	0	2,053	945	2,997	15,506	59,681	59,681		
1994 H. 6	10,985	2,920	25,190	39,095	44,822	4,754	587	387	5,727	44,822	11,777	20,152	7	3,908	9,597	13,512	33,664	78,487	78,487		
1995 H. 7	24,369	3,736	24,526	52,630	63,969	8,858	1,832	648	11,338	63,969	11,850	21,145	93	6,645	16,388	23,125	44,270	108,239	108,239		
1996 H. 8	26,609	7,365	32,965	66,939	74,497	5,081	2,363	114	7,558	74,497	9,009	12,477	11	2,758	3,428	6,197	18,674	93,171	93,171		
1997 H. 9	8,678	91	11,909	21,498	26,266	3,901	810	56	4,767	26,266	3,055	4,001	1	344	456	800	4,802	31,068	31,068		
1998 H. 10	15,369	924	17,353	33,646	38,721	8,735	18,424	238	1,485	19,909	1,820	1,986	4	358	3,175	3,537	7,344	27,252	27,252		
2000 H. 12	13,938	2,532	16,543	33,013	37,641	4,151	420	57	4,627	37,641	16,698	17,681	34,378	9	4,093	11,743	15,844	50,223	88,944		
2001 H. 13	5,619	1,343	12,708	19,670	21,756	1,864	100	122	2,087	21,756	4,187	12,964	17,151	2	584	3,083	3,668	20,819	58,460		
2002 H. 14	15,031	5,725	30,422	51,178	56,288	3,356	1,270	483	5,109	56,288	1,905	4,742	6,647	0	803	4,599	5,402	12,050	33,806		
2003 H. 15	10,047	2,493	13,988	26,527	31,230	6,784	570	23	5,480	31,230	1,518	2,478	2,696	0	262	1,611	1,873	4,569	60,857		
2004 H. 16	6,753	1,284	9,216	17,252	20,805	3,090	414	48	3,552	20,805	898	4,390	5,288	1	481	1,481	1,959	7,247	39,957		
2005 H. 17	11,359	1,350	24,879	37,589	45,326	5,279	2,382	76	7,737	45,326	1,104	9,716	10,820	1	686	3,682	5,368	16,188	41,177		
2006 H. 18	15,620	3,192	27,412	46,224	50,889	3,750	806	109	4,665	50,889	1,629	3,241	4,870	229	2,754	2,983	7,853	58,742	58,742		
2007 H. 19	8,217	3,371	6,017	17,605	24,552	5,604	1,101	242	6,947	24,552	1,318	3,029	4,347	124	1,955	2,079	6,426	41,898	41,898		
2008 H. 20	9,404	1,560	8,638	19,603	33,322	10,202	3,055	463	13,720	33,322	6,272	13,859	20,131	0	2,619	14,546	17,165	37,296	61,848		
2009 H. 21	12,578	398	5,266	18,241	30,118	7,655	3,814	407	11,876	30,118	10,976	15,500	26,476	823	4,575	21,583	26,981	53,456	86,779		
2010 H. 22	9,696	540	6,457	16,693	27,020	8,946	1,039	342	10,327	27,020	5,906	8,676	14,582	156	813	4,135	5,104	19,686	49,803		
2011 H. 23	6,519	842	6,618	13,979	30,991	11,599	5,390	22	17,012	30,991	13,026	11,496	24,522	23	5,756	12,395	18,174	42,696	69,716		
2012 H. 24	3,677	1,239	2,718	7,634	26,071	11,626	6,806	5	18,437	26,071	7,504	3,047	10,551	6	4,618	8,280	12,905	23,456	54,446		
2013 H. 25	2,663	797	1,122	4,582	7,219	1,029	1,607	0	2,636	7,219	4,044	2,676	6,720	3	859	2,736	3,599	10,319	36,390		
2014 H. 26	1,772	1,021	1,536	4,329	4,494	142	22	0	165	4,494	117	313	429	28	340	369	798	8,017	8,017		
2015 H. 27	1,749	823	1,696	4,268	4,676	368	39	1	408	4,676	70	100	169	50	224	274	381	4,875	4,875		
2016 H. 28	1,325	373	1,433	3,131	4,076	675	135	134	945	4,076	780	1,890	2,670	0	253	937	1,190	3,860	7,936		
2017 H. 29																					
2018 H. 30																					
2019 R. 1																					

注：道南太平洋は渡島(松前・福島町および八雲町熊石地区を除く)、胆振、日高振興局管内、道東太平洋は十勝・釧路・根室振興局管内の太平洋側、根室海峡は羅臼町、ホーツク・宗谷はオホーツク総合振興局(枝幸・浜頓別・猿払村および稚内市宗谷地区)管内、資料は漁業生産高報告、2018、2019年度は水試集計速報値を含む。

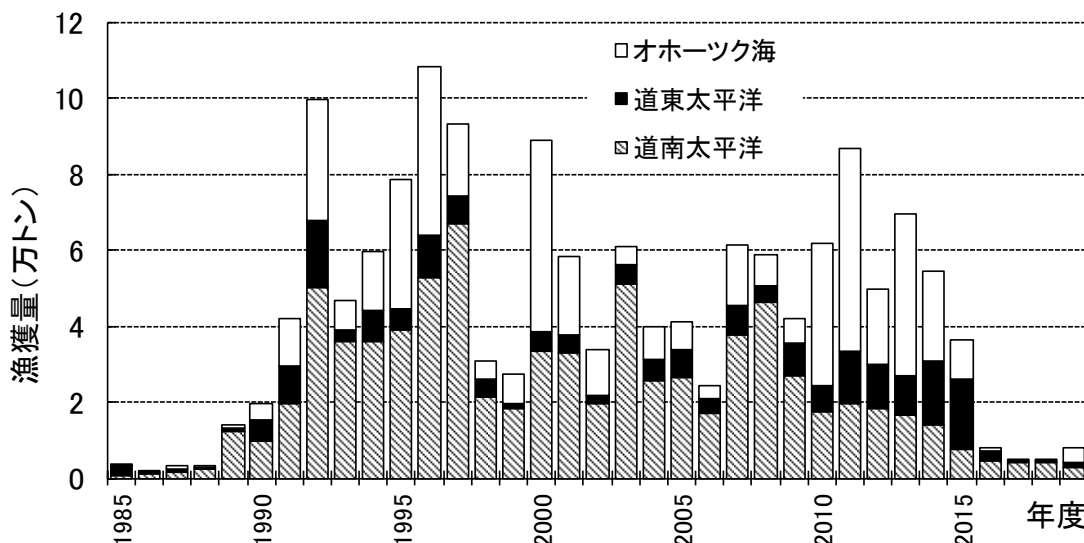


図3 北海道の太平洋～オホーツク海におけるスルメイカ漁獲量の経年変化

表3 北海道の太平洋～オホーツク海における漁獲努力量の経年変化

年度	いか釣り延べ操業隻数							沖底曳網回数（かけまわし）*		
	道南太平洋		道東太平洋				林-ツク海	道南太平洋	道東太平洋	林-ツク海
	函館港	浦河港	十勝港	釧路港	厚岸港	花咲港	羅臼港	襟裳以西	道東	ワッカ沿岸
1985	5,788	—	6	4	—	—	—	—	—	—
1986	11,441	—	150	21	—	—	—	—	—	—
1987	10,228	—	150	18	—	—	—	—	—	—
1988	10,085	—	24	4	—	—	—	—	—	—
1989	11,028	—	100	0	—	—	—	—	—	—
1990	9,529	—	821	2,819	—	—	—	—	—	—
1991	9,274	—	1,672	4,321	—	—	—	—	—	—
1992	8,856	—	1,595	4,788	—	—	—	—	—	—
1993	10,281	2,620	457	725	—	1,613	—	—	—	—
1994	9,305	2,661	635	1,990	—	3,364	—	—	—	—
1995	8,389	2,199	243	2,096	—	5,368	—	—	—	—
1996	11,375	1,371	686	2,932	—	4,864	530	1,139	1,880	—
1997	8,105	3,215	130	1,431	—	3,743	681	844	311	—
1998	7,563	2,188	533	1,424	—	1,231	93	16	10	—
1999	6,822	1,661	194	1,294	—	1,522	0	39	12	—
2000	7,367	2,024	471	1,324	—	3,182	128	129	630	—
2001	6,421	1,083	233	1,351	—	2,112	321	180	23	—
2002	6,850	1,209	109	1,229	—	2,306	212	10	72	—
2003	6,651	3,084	149	1,645	—	791	758	336	0	—
2004	6,621	2,978	96	1,441	—	1,537	403	97	30	—
2005	5,835	2,017	486	2,250	1,311	939	1,678	619	112	0
2006	4,688	1,970	329	2,118	1,219	0	531	252	217	0
2007	5,591	1,883	600	2,617	780	187	2,924	218	178	51
2008	5,061	2,749	903	1,562	144	251	1,027	587	83	0
2009	4,538	2,989	387	1,998	534	391	785	517	140	0
2010	3,956	1,730	797	2,219	929	678	3,795	443	81	777
2011	3,463	2,002	1,410	2,148	1,675	1,332	5,181	252	369	856
2012	3,043	2,980	1,418	2,911	593	876	2,910	145	397	123
2013	3,306	2,228	1,981	1,750	1,415	1,909	6,419	247	29	2,134
2014	2,728	1,495	1,780	2,808	1,872	3,829	5,171	387	278	1,673
2015	2,668	966	2,439	3,846	1,791	4,460	4,578	141	477	241
2016	2,120	1,775	454	671	296	1,379	1,196	229	19	0
2017	2,315	435	0	0	27	249	349	232	0	0
2018	1,758	1,588	0	131	223	439	1,129	0	0	0
2019	2,075	367	61	53	228	1,500	4,175	0	0	0

*スルメイカの漁獲が80%を超えた曳網の回数

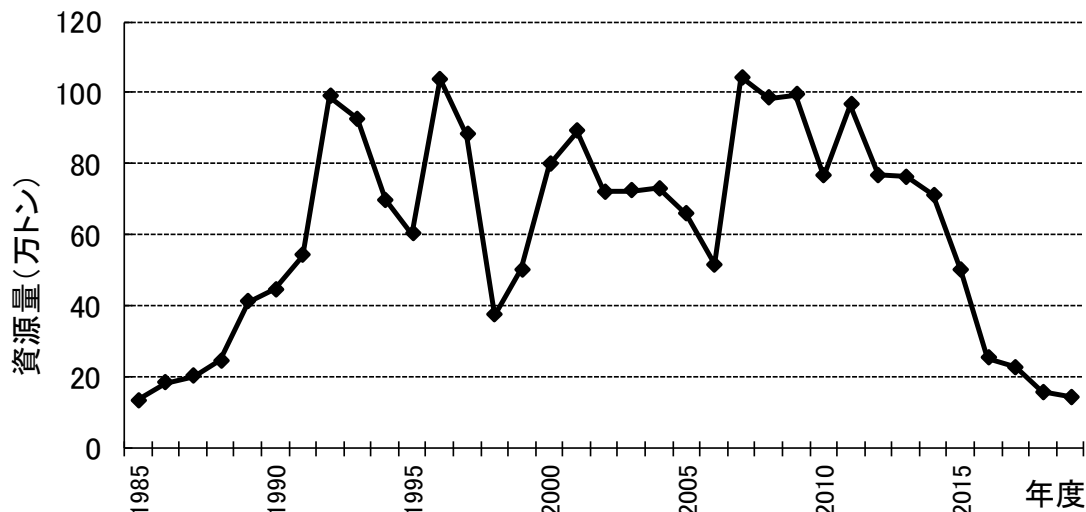


図4 冬季発生系群スルメイカ資源量の経年変化
(令和元年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価²⁾より)

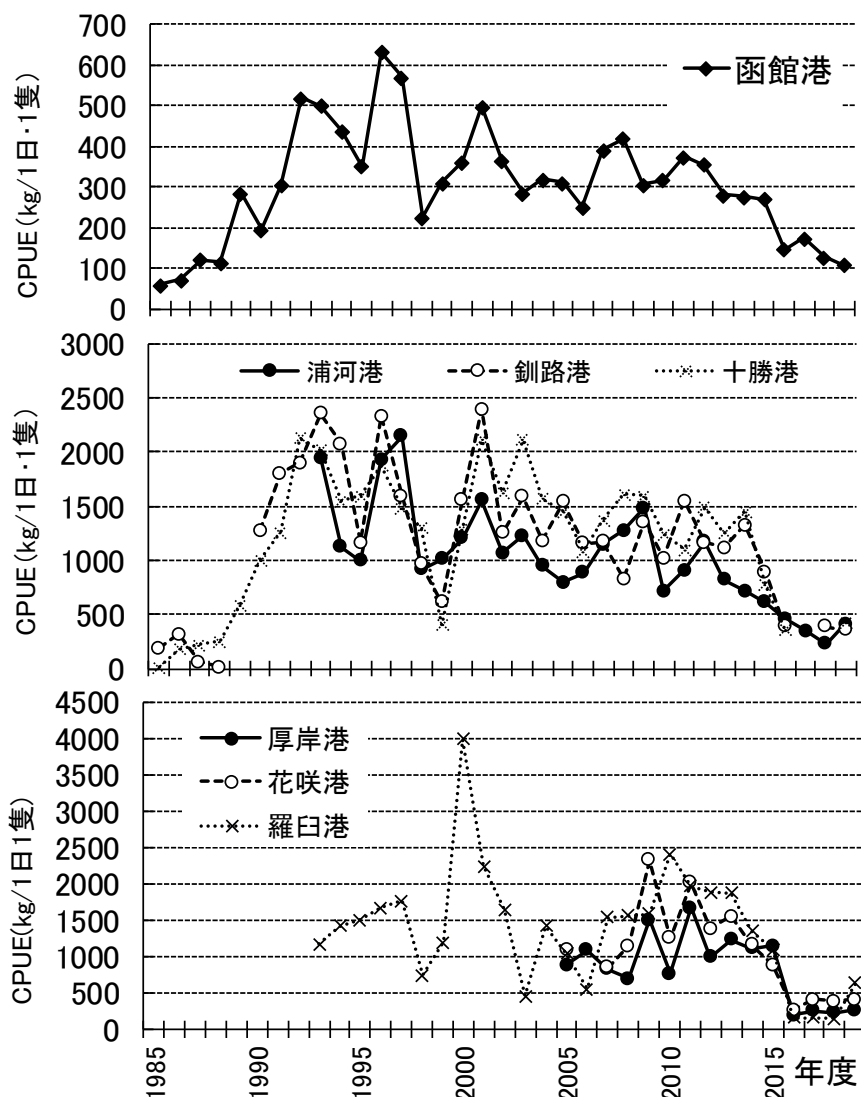


図5 太平洋主要港における小型いか釣り船CPUEの経年変化
CPUEは1日1隻当りの漁獲重量

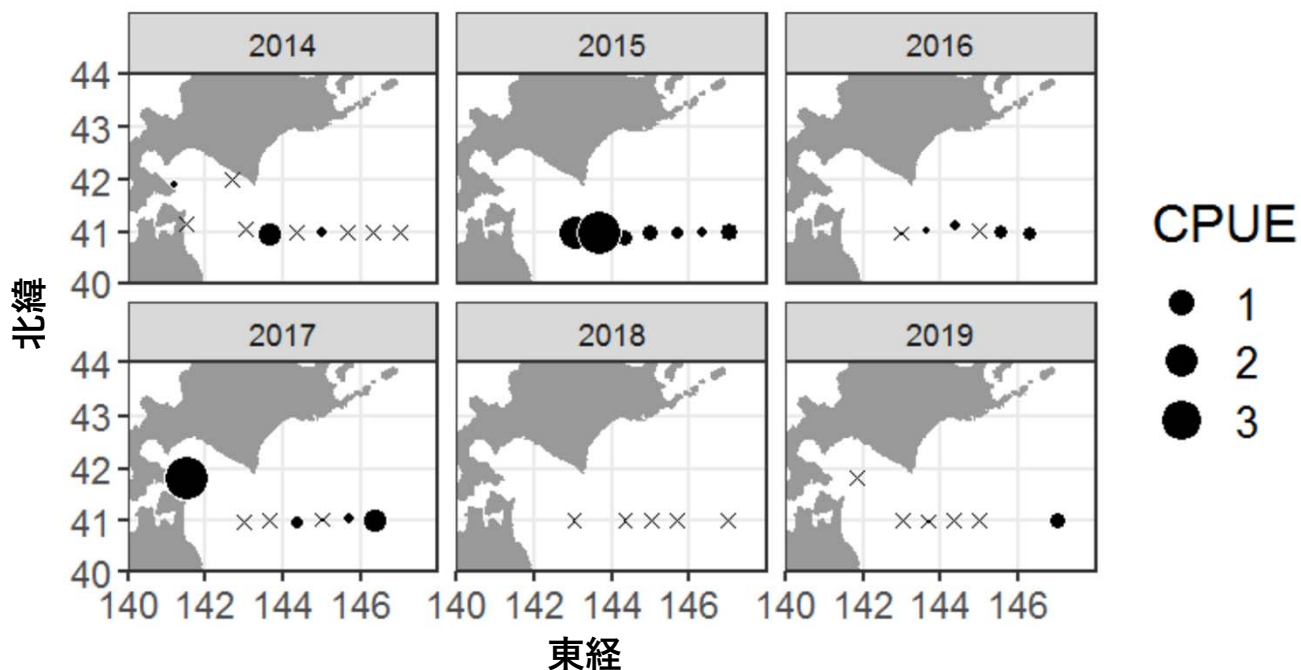


図6 試験調査船北辰丸および金星丸による過去6年の6月調査結果
●は調査点で大きさはCPUE（尾数/1台1時間）を示す。×は漁獲なし

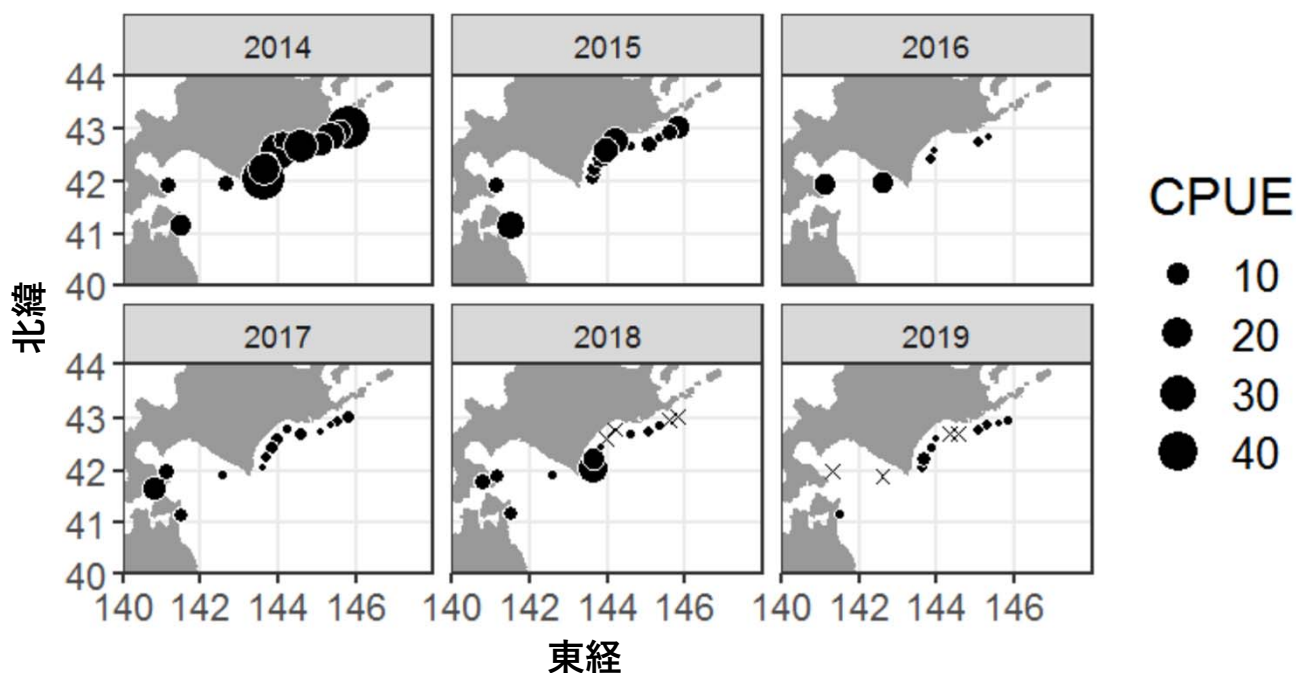


図7 試験調査船北辰丸および金星丸による過去6年の8月調査結果
●は調査点で大きさはCPUE（尾数/1台1時間）を示す。×は漁獲なし

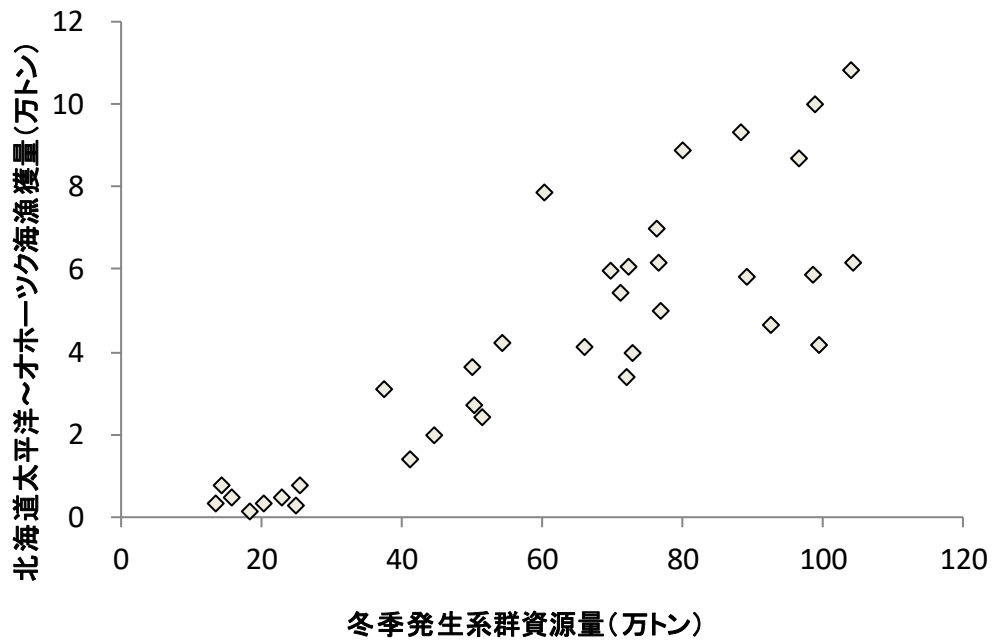


図8 スルメイカ冬季発生系群の資源量と北海道太平洋～オホーツク海海域におけるスルメイカ漁獲量の関係（1985～2019年度）

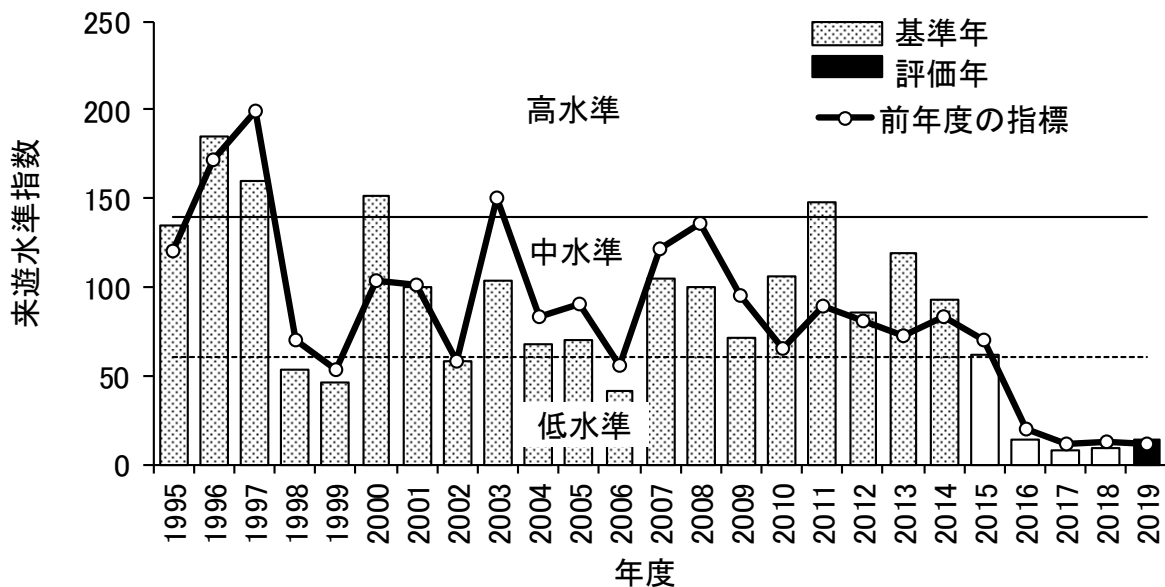


図9 北海道の太平洋～オホーツク海海域におけるスルメイカの来遊水準（資源状態を示す指標：太平洋～オホーツク海海域漁獲量）
折れ線は前年度の指標とした太平洋海域のみの漁獲量での来遊水準指数